

広報 ひんがし

第 22 号

発行所 黒埼村役場
発行人 清水 善夫
印刷所 小野塚印刷機

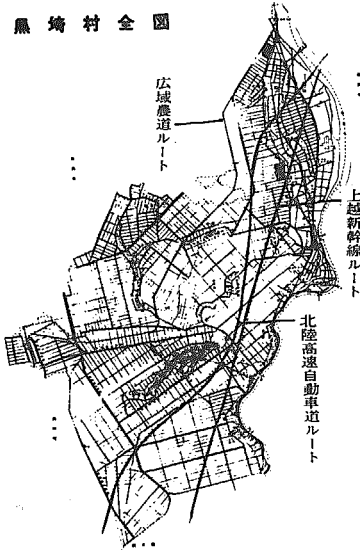
ますます変りゆく黒埼村

五年後には上越新幹線と 北陸高速自動車道が開通

二・六・八四圃の面積をほこる本村も新潟市近郊という地域で、市のベッドタウンの様相を程し昭和四十一年度には県営住宅団地六三戸が建設され、また翌年度には一四七戸が、四十三年度には八六戸が造成されるなど、その他民間住宅も年平均一九〇戸が建設され、人口、世帯ともに年々増加の一途をたどっている。

特に国道八号線、山田地区にはみ業の進出が著しく、他郡市にはみ

黒 埼 村 全 図



られない飛躍・進展をとげている反面、北陸高速自動車道、上越新幹線の本村経断により宅地や農地の消滅により農業問題も深刻に考えなければならぬ、そこで広域営農団地整備計画による、広域農道等建設の促進につき、農業問題も大きく轉換しつつある、その他あらゆる面からみて五年後の黒埼村は大変貌をとげようとしている。

〈村の動き〉

12月末現在(前月比)		
人口	17,388	+11
男	8,525	+13
女	8,863	-2
世帯数	3,881	+9
12月1日から末まで(前月比)		
死亡	11	+0
出生	31	-6
結婚	45	-27

上越新幹線ルート

三月中には三角測量を終了

去る、一月十二日、役場議場において、村議会議員、連絡委員、土地改良代表、農協代表、農業委員代表が出席のもとで、第二回上越新幹線の詳細なルート発表と事業の概要について説明会が開催された。当日図面に示された用地買収幅は約十一mであるが場合ににより若干広くなる事も予想される本村においては三月末をもって三角測量を終了し、また地盤沈下の激しい地点においては近日中に業者を決定し開地を行なうことも考えられているのでご協力願いたいというのが公団の主な話であった。

質 一住宅の中心を通過する場合引き屋もできず、幅十一mだけの買収価格では到底、代替地は求められない、こうした場合の補償はどうするか。

答 非常にむずかしい問題なので用地担当がよく話し合いをしたい。

質 高速道路と新幹線に挟まれた田畑について作物の収量に大なり小なり被害が考えられるがこの補償は。

答 法令によって作業を進めているので、この法律があれば当然補償しなければならぬが、法律が無いので公団独自では考えられない。

質 工事後の用地の管理はどうか、また雑草、害虫等により附近の田畑に被害が考えられるがこれをどうするか。

答 完成後は国鉄に引き渡す。用地の管理も当然国鉄側になるが工夫を要している被害のないよう、十分話し合いをする。

質 高架橋の下十一m間は立入禁止か。

答 危険であるので柵を閉し立入禁止にする、しかし、必要に応じて通路を設ける。(現在の所、何mおきになるかは未定であるが設計の段階で地元と協議の上決定する)

主な質議事項を拾ってみたわけだが、なかなか手酷い質議応答がなされ、これから細部について一月下旬頃より部落単位で説明会を行ない、納得のいくよう最大の配慮は考えているというところで正后過ぎ説明会を終了した。

質 買収幅はどの位か。

答 十一mであるが積雪等も考慮に入れると、若干広くなる場合もある。

質 代替地の斡旋をしてくれるか。

答 直接公団では行わない。

質 代替地の価格はどうか。

答 現在と同等の価格で考慮したい。また土地の買収価格は、立地条件、環境などを考慮に入れ負担をかけないようにする。